

# 視点を換えれば、世の中は変わる。

★ Rethink=視点を換えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を換えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに行う地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っています。

★ そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。

みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethink フォーラム～視点を換えれば、世の中は変わる～」(高知新聞社主催、高知県ほか後援、Rethink PROJECT協賛)が10月10日、高知市のザ クラウンパレス新阪急高知で開催されました。第1部ではお笑い芸人の山田花子さんが「私のRethink」と題してトークを展開。第2部では濱田省司高知県知事と、助産師の藤原恵さんが加わり、「Rethink高知～未来を切り拓く少子化対策～」をテーマに意見を交わしました。要旨を紹介します。

## ゲスト



やまだ はなこ  
**山田花子氏** (お笑い芸人)  
演題: 私の Rethink

1975(昭和50)年大阪府生まれ。88(同63)年に吉本興業に入所。97(平成9)年、第26回上方お笑い大賞話題賞を受賞。吉本新喜劇で注目を浴び、数々のバラエティ番組をはじめ、2002(同14)年にはNHKの連続テレビ小説「まんてん」に出演するなど、ドラマや映画でも活躍中。

### 人生はチャレンジの連続

#### ★ お笑いの道に進んだきっかけ

一花子さんは大阪府ご出身です。どんなお子さんでしたか？  
おとなしくて人見知りの性格でした。実は今も人見知りなんですよ。

一お笑いの道に進んだきっかけは何だったんでしょう？  
中学生の時に大ファンだった今田耕司さんの舞台に出られるイベントがあって、今田さんに会いたくて一人コントをしました。そうしたら「今田賞」をもらって、吉本興業の人に「吉本入りや」と言われたんです。高校生の時にはダウンタウンさんの番組のレギュラーになって、東京にも通うようになりました。

一躍人気者になったのですね。その後もレギュラー番組をたくさん抱えていましたが、突然違うことにチャレンジされましたね。  
女子プロレスです。子どもの頃からの夢だったんです。吉本の社長に「女子プロレスラーになるから吉本辞めます」と言ったら、「アホが!」って言われましたね。

一行動力がありますね。何が準備はされていたのですか？  
空手を習ったり、プロレスのジムに通ったりしていました。

夢を持ち続けていたんです。

一実際、プロレスラーになっていかがでしたか？  
一日中練習で大変でした。受け身の練習ばかりするんですが、私、受け身ができなくて。失敗して、頭を打って粗相してしまっ、クビになりました! それで吉本に「またお笑いやりたいです」と電話したら「そりゃそうや!」って、受け入れてくれました!

一チャレンジしたことで考えは変わりましたか？  
切り替えができました。もうあかん、お笑いじゃないって。夢は諦めて、お笑い一本でいく! って決めました。

#### ★ 結婚・出産を経てさらなるチャレンジ

一その後はご結婚されて、2人のお子さまにも恵まれました。  
夫はトランペッターで、ある番組がきっかけで出会いました。最初はラブレターを出して、最後は私がマンション買うから一緒に住もうってプロポーズしました!

一ご家族が仲良くて、最近は動画配信にも挑戦していますね。  
そうなんです。子どもたちはカメラを用意すると集まってきたりポーズを取ったりして、企画を考えてくれることもあるんですよ。

一2016(平成28)年には12年ぶりに大阪の新喜劇に戻られました。

新喜劇は家族みたいで、楽屋に子どもを連れて行くとみんな面倒を見てくれるんです。実は新喜劇の出演者の人気投票があって、最初は7位、次は5位、そして前回は3位まで上がったんです。次こそ1位を目指しています!

一頑張ってください! とここでこれまでの芸人人生を振り返って、誰かの一言で人生が変わった、つまりRethinkしたことはありましたか？

一明石家さんまさんと舞台をご一緒した時、始まる前に「スベるなら大きくスベれよ、そしたら俺が笑いに変わるから」と言ってくれたんです。何してもいいやと思うようになって、それから自信を持ってポケれるようになりました。

一これからもたくさん笑いを届けてくださいな。  
はい、皆さんお見逃しなく!

## テーマ「Rethink高知～未来を切り拓く少子化対策～」

パネルディスカッション出演者 山田花子氏 (お笑い芸人)、濱田省司氏 (高知県知事)、藤原恵氏 (助産師・いのちのちみサポートはくあず代表)、花房果子氏 (フリーアナウンサー)

### モデレーター

#### 「共働き・子育て」をオール高知で推進

濱田 高知県の人口は1985(昭和60)年は84万人ほどでしたが、最近では65万人台まで減っています。要因は、若い方の県外流出、出生数の減少、そして高齢化です。2022(令和4)年の出生数は3721人と、全国で最少でした。この厳しい状況を受け、県は今年3月に「高知県元気な未来創造戦略」という人口減少対策計画を策定しました。計画では三つの政策を掲げています。一つ目は魅力ある仕事を増やし若者の定着・増加を図ること。二つ目は結婚の希望をかなえ婚姻数の増加を図ること。そして三つ目は、子どもを産み育てたいという希望をかなえ、出生数を増やすこと。この三つの政策に全力で取り組むことで人口減少に歯止めをかけ、元気で明るい未来を高知に拓いていこうと取り組みを始めています。

花房 政策について詳しくお聞かせください。

濱田 一つ目については、若者が高知に定着する、あるいは高知に帰ってくるために、まずは県内企業の所得向上、働きやすい環境整備を進めていきます。加えて事務系・IT系企業の誘致や、第一次産業・建設業等のデジタル化も推進していきたいと思っています。二つ目については、出会いの機会を創出するとともに結婚支援の取り組みを強化し、年間2100組ほどの婚姻件数を2500組まで増やしたいと考えています。三つ目については、安心して妊娠・出産・子育てできる体制づくりが大事です。女性の出産・育児・家事にかかる負担は過大です。そこで、「男性が育児休暇を取るのが当たり前の高知」を目指し、「共働き・子育て」を県民運動として展開していきます。加えて、不妊治療や産後ケア、子育ての経済的支援も手厚くしていき取り組みを続けていきます。

#### 地域でお母さんお父さんを支える

花房 続いて藤原さん、産後ケア事業について教えてください。

藤原 私は、子育て中のお母さんたちがホッと安心できる場所、心身ともに元気になる場所をつくりたいと思い、「いのちのちみサポートはくあず」を開設しました。産後ケア事業は、産後1年未満であればどなたでもご利用いただける市町村事業です。高知県では市町村によって取り組みの違いはありますが、訪問型、通所型、宿泊型の3タイプがあります。はくあずは通所型と宿泊型を受託しており、助産師や保育士などに育児の相談をしたり、抱っこや授乳など育児の練習も一緒にできます。またお母さんのご希望によって赤ちゃんをお預かりしてゆっくり食事や入浴、休憩できる時間もあり、おやつタイムにはお母さん同士交流もできます。女性が心身ともに充電できる場所、安心してお母さんが成長できる場所、女性同士や支援者となつなげられる場所、この三つを大事にしています。

山田 私は1人目を東京で出産したので、主人と2人だけの子育てで本当に大変でした。トイレに行く暇もお風呂の時間もなくて。ご飯もキッチンで立ち食いでした。産後ケアについては知らなかったです。身近にあったら、つらい時期を乗り越えられたと思います。

濱田 お話を聞いて、大変勉強になりました。女性にとって出産は一大事業。その直後は体も大変疲れているしメンタルも不安定で、寂しい思いをすることも多いと思います。「あなたが主役なんです」と温かくケアしていただける産後ケア事業は、大変ありがたいサービスだと思います。高知県の中でも少しずつ広がってきて、今出産される方の約2割がこの事業を使っています。ただ通所型、宿泊型の施設は都郡では利用しにくく、もっと県全体に広がっていく

ことが行政として課題だと思っておりです。

藤原 赤ちゃんが生まれると皆さん赤ちゃんに集中しがちなんですが、女性も母親ゼロ歳なんです。分からないこと、できないこと、不安なことがいっぱいあって当然です。だから、できるだけ早い時期から地域や家族の理解を得てお母さん自身が満たされることで、その愛情が子どもに注がれるのかなと思います。お父さんも同じです。花房 なるほど、お父さんも同じなのですね。そこはRethinkですね。

#### 生まれ育った地元で子育てを

花房 山田さんはお仕事と育児を両立されていますね。  
山田 仕事は絶対したいと思っていて、生まれて2カ月で復帰したんです。それまでは子どもと二人っきりで、社会から取り残された感じがありました。子どもは泣いてばかりで寝ないしつらくてつらくて。でも少し距離があるとますますかわいくなるんです。

花房 大阪にUターンされたきっかけは？  
山田 自分が育った地元で子育てしたかったし、大阪弁の子に育てたかったのもあるんです。知り合いも多し面倒見てもらえるし、新喜劇は時間が決まっただけで育児しやすい環境だったんです。ファミリーサポートにも助けられました。今は息子もすっかりパパっ子で、今日も私は高知に泊まりなんです。パパに任せられました。  
濱田 東京から地元に戻ってご家族にもサポートしてもらっていると、良いお話を聞きました。私も高知出身の女性に、高知に帰っておいでと伝えたいです。

山田 やっぱり地元で子育てはいいですよ。  
花房 ありがとうございました。

